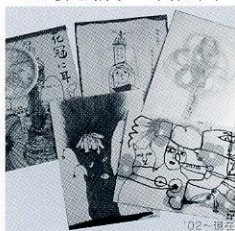


ファミリー文学館 小林 重予展 物語る庭

「ファミリー文学館」は幅広い年齢層を対象とした教育普及プログラムです。今回は、植物の神秘的な営みに自身の感情を重ねる造形作家・小林重予の、物語性豊かな創造世界を紹介します。その表現領域は多岐にわたり、地域の特性に着目したワークショップや舞台美術なども手がける一方、教育活動にも積極的に取り組んでいます。今年、詩画集『鬼のいる庭 往来葉書』(09年海鳥社/岡田哲也・小林重予共著)が出版され、注目を集めています。この本には鹿児島島の詩人・岡田哲也と2007年節分の日から1年間、絵と言葉を交わした葉書55通が収められています。

本展では、会場を「庭」に見立て、6つのブースにわけて展示します。「物語る庭」を歩きながら、現代美術にちりばめられた“言の葉”の面白さ、楽しさ、切なさ、危うさを、どうぞご覧ください。

* 土壌を耕す一日記画 *



日々集めている素材や書籍に光をそそぎ、養分を蓄える日記画

* 種の飛来 - 光の種 *



外からの刺激によって芽吹く作家の感情を造形化

* 接ぎ木の発芽 - 往来葉書 *



異分野である詩人との関わりから生まれた作品

* 記憶の光合成 - アトリエ *



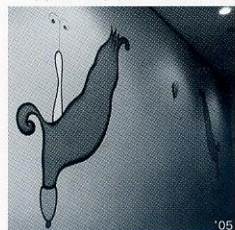
日々集めている素材や書籍に光をそそぎ、養分を蓄える

* 結実の庭 - 立体造形 *



多彩な素材を用い、有機的な生命感あふれる立体造形

* 新たな球根 - 公共・舞台・教育 *



他者のまなざしによって株分けされるアートの数々

* ワークショップ「作って投函往来葉書」

2人の間で1枚の葉書が行き交い、「待つ・繋がる・相互に関わる」ことから生まれる郵便アートです。共同作業をとおして、どのような表現世界が生まれるのか、予測できない楽しさを体験しましょう! 2人1組でご応募ください。

日程 A日程 10月10日(土) 14:00~16:00
10月17日(土) 14:00~16:00
B日程 10月11日(日) 10:00~12:00
10月17日(土) 14:00~16:00

※どちらかの日程をお選びください。
17日はAB合同ワークショップとなります。

費用 無料

人数対象 2人1組で5組

2人での参加が可能な方。公開事業のため、参加者のお名前、容姿、制作作品・制作過程の公表、掲示に同意される方。

講師 小林重予(造形作家)

会場 北海道立文学館ロビー

申込方法 tel : 011-511-7655
E-mail : bungaku@h-bungaku.or.jpで10月1日まで受付。

申込事項：住所、氏名、年齢、職業(学年)、電話番号、メールアドレス、参加希望日程。
応募者多数の場合は、講師と主催者が世代分布を考慮して選考し、結果は10月3日までに応募者に通知します。

※ワークショップで当館が知り得た個人情報は、当該事業以外の目的では一切利用いたしません。

* クロストーク&朗読会『『鬼のいる庭』ができるまで』

小林重予(造形作家)と岡田哲也(詩人)によるクロストーク。本の完成までに二人の間に生じた「ズレ」や「予期せぬ表現」などのエピソードを交えながらの対談です。岡田哲也による詩の朗読会も行います。10月24日(土) 14:00~ 当館講堂 定員60名【10/10電話受付開始】

* ギャラリートーク「物語る庭で根ほり葉ほり」

作家と当館職員による作品解説です。17日はシルバー世代、31日はキッズの参加を優先しますがどなたでもお気軽にどうぞ! 作家とお話しましょう!
10月10日(土)、17日(土)、31日(土) 10:00~
11月1日(日)、8日(日) 11:00~
当館特別展示室【事前申込み不要】

* 自由参加プログラム

「想いの接ぎ木 - 連なる言の葉 -」

言葉と絵を選び、その組み合わせによって枝葉を広げ、見知らぬ他者と新しい物語をつないでゆくプログラムです。

同時開催 第4回夏休み小中学生短歌コンテスト作品展

小学校低学年、高学年、中学生の3部門にわたり、7月7日(火)から8月31日(月)まで募集した「夏休み小中学生短歌コンテスト」に寄せられた全作品を展示します。10月17日(土) 11:00から地階ロビーにおいて入選作の表彰式を行います。

同時開催 夏休み文学道場作品展

中学生・高校生を対象に、7月29日(水)から3日間の日程で実施した創作講座「夏休み文学道場」の参加者の作品を展示し、活動の内容や成果を紹介します。

こばやし しげよ
小林 重予 (造形作家) 1957年札幌生まれ、札幌在住

文化女子大学金属工芸科卒業。インドネシアに滞在し、国立芸術大学やマス村にて木彫を学ぶ。木などの自然素材や金属・ガラスなどを組み合わせた作品は、架空の種子や果実、植物を彷彿させる。個展は、1993年Art space猿(福岡)を皮切りにスカイドアー・アートプレイス青山(東京'97)、感覚ミュージアム(宮城'04)、北網圏北見文化センター(北見'05)、CEMETI ART HOUSE(ジョグジャカルタ'06)など国内外で開催。越後妻有アートトリエンナーレ(新潟'00)、国民文化祭現代彫刻展(山口'06)ほか各地の企画展に出品し、評価を得ている。土地の特色を生かした作品設置は、札幌ドーム、摩周厚生病院、札幌テレビ局などがある。